

## 令和2年度岩手県立博物館協議会議事録

<b>日 時</b>	令和3年1月26日(火) 13時30分～15時30分
<b>場 所</b>	岩手県立博物館 会議室
<b>出席委員</b>	星俊也(会長)、阿部真一、松葉覚、五日市健、細越千絵子、及川亜希子、松政正俊、菅野文夫、山本玲子、沼里由紀子 各委員(10名)
<b>(県側出席者)</b>	藤原安生生涯学習文化財課総括課長、岩淵計文化財課長、佐藤淳一上席文化財専門員、佐藤正徳主任
<b>生涯学習文化財課</b>	
<b>文化振興事業団</b>	山崎隆文化振興事業団事務局長
<b>博 物 館</b>	高橋廣至館長、千田貴浩副館長、小山内透学芸第一課長、木戸口俊子学芸第二課長、濱田宏学芸第三課長、花山智行総務課長、小野寺聡美主事

<b>1 開 会</b>	
司会進行 総務課長	協議会委員総数15名中、本日の出席者は現在10名である。半数を超えているので、岩手県立博物館管理運営規則第9条第2項の規定により本会議の成立を報告する。
<b>2 館長挨拶</b>	<p>皆さんこんにちは、本日は大変お忙しい中、お寒い中、また、足下の悪い中、ご出席いただきましてありがとうございます。県立博物館、館長の高橋廣至と申します。どうぞよろしくお願い致します。</p> <p>最初に、昨年令和2年は、岩手県立博物館開館40周年の記念すべき年でありましたので、まず県立博物館の歴史についてお話しさせていただきます。</p> <p>当館は、昭和55年10月5日、「郷土に対する知識と理解を深め、未来の岩手の可能性を認識して、教育、学術、文化の発展と、郷土を築く県民の意欲の高揚に寄与する」と、「今日の博物館は、従来の博物館が持っていた単なる収集品の保存及び展示物という考えに止まらず生涯教育の拠点として、年齢、性別、学歴を問わず誰でもが、いつでも地域社会における産業、文化、生活を創造するために学習できる場を設置する」という基本構想のもとに、県制百年を記念して開館しました。</p> <p>開館時から40年間、総合博物館として原始から現代に至る岩手の歴史の流れと時代の特色が展観できるよう、常に創意工夫を凝らして参りました。</p> <p>さて、これまで当館では周年行事として、10年ごとに岩手に因んだ特別企画展を実施してまいりましたが、今年度の開館40周年記念特別企画展では、「みる！しる！わかる！三陸再発見」をテーマとして、三陸地方のまだ広く知られていない部分に光を当て、三陸とはどのような地域であるのかを、自然史・文化史の観点から多角的に紹介する予定でありました。また、今年度は東日本大震災から10年目にあたり、記憶を新たに、月日とともに薄れがちな防災・減災意識を高める契機にしたいとも考えておりました。しかしながら、皆さんご存知の通り、昨年より猛威を振るっている新型コロナウイルスの感染拡大のために、開館40周年記念事業のほとんどが中止、または、延期を余儀なくされました。残念ながら予定された多くの記念事業はできませんでした。しかしながら、ご支援をいただいていた、特にも沿岸地域の皆さまのためにも記念事業の企画を再</p>

	<p>度立ち上げたいものと考えています。</p> <p>今年度の特別企画展は実施できませんでしたが、予定されていた企画展、「化石の水族館」、「個性派役者勢揃い～岩手の繰り人形～」、「いわての政治物語 ― 幕末・明治・大正 ―」は、新型コロナウイルス禍の中、何とか開催することができました。感染防止対策を徹底しながらの展示会開催ではありましたが、県民の皆さまのご協力ご支援に対しまして心より感謝致しております。また、年度またぎの展示会「縄文いわての環状列石」も予定通り実施したいものと考えております。</p> <p>当館では、40周年という記念の年に向け、職員一丸となって意欲的に頑張っておりましたが、大変残念な年になってしまいました。しかし、このような状況下にもかかわらず、多くの方がいらしていただいたことに対しまして、心から感謝しております。今後も来館者の皆様の健康を第一に考えながら、来ていただいた皆様には、是非とも、コロナを忘れ楽しんでもらいたいと思っています。</p> <p>次に、当館が東日本大震災以後、継続して取り組んでまいりました被災文化財修復作業ですが、今年度で9年目を迎えました。被災した県内の「郷土の宝」を救うため、県立博物館でも震災直後から被災した陸前高田市立博物館等の資料の受け入れを開始し、全国の専門機関と連携して国からの補助を受け、被災文化財の再生に取り組んできました。今年度で被災文化財約46万点のうち28万点余りの修復が終わりました。この被災文化財修復作業は、地域の文化や歴史を過去から未来につなぐ作業でもあり、全ての文化財修復の完了を目指して作業を続けております。</p> <p>この事業について少し補足致します。この事業は来年度も国からの支援を受けることにはなっていますが、震災から10年以降は単年度毎に予算申請をし、その審査が認められなければ予算が付きません。コロナ禍にもあり、将来的に厳しいものになることが予想されます。</p> <p>最後になりますが、平成20年に「岩手県立博物館使命書」が制定されました。使命書には、「岩手県立博物館は、県民の要請に応じて県民とともに歩む博物館として機能を強化し、新たな地域文化の創造を目指す」、ことも記されています。</p> <p>この使命書に基づき、更に創立50周年、60周年に向け、県民と一体となった博物館活動の促進を図ってまいりたいと思います。そして、開館当初より目指してきた「開かれた博物館、行動する博物館、親しまれる博物館」を指針に、多くの方に繰り返し足を運んでいただき、「楽しかった。もう一度来てみたい」と思われるような岩手県立博物館であり続けたいと考えています。今後とも皆様の一層のご支援をお願いいたします。</p> <p>本日はどうぞよろしくお願い致します。</p>
3 委員紹介	出席委員紹介
4 職員紹介	出席職員紹介
5 議 事	<p>管理運営規則第8条の規定により、本会議の議長は会長が務めることとする。</p> <p>会長から職務代理者に菅野文夫委員を指名。</p>



	<p>な予算が必要と聞いており、その中でこれまでの事業の事業費も吸い上げられることも考えられる。</p> <p>もう 10 年やりましたよね、ということにならないよう色々なところをお願いして、何とか継続していきたいと思っている。</p>
[議長]	<p>毎年どれくらいの予算額となっているのか。</p>
[総務課長]	<p>陸前高田市から当館への委託については、1 億 5,6 千万円前後である。</p>
[議長]	<p>写真コンテストについては、評価結果を出すものか。</p>
[総務課長]	<p>写真コンテストの予算は 3 年度に確保することで、現在は応募受付のみ行っている。</p> <p>来館が難しい折、県民と館との絆にする趣旨もあり、写真技術ではなく一般の観点の審査を考えている。</p> <p>審査結果で入賞を決め、できれば全作品を展示し、応募した方々に見に来ていただければと考えている。</p>
[議長]	<p>団体人数の受入れ上限を決めながら対応したとのことであるが、これまで来ていなかったが、予定を変えて修学旅行で来館した学校はどの位か。</p>
[学芸第三課長]	<p>手元に資料がないが、2～30 校位と思う。</p>
[松政委員]	<p>コロナ対応についてあるが、オンラインのシステムを入れるとか、館の Wi-Fi 環境とかはどのようになっているか。オンラインを導入する動きがあるか、教えていただきたい。</p>
[学芸第三課長]	<p>Wi-Fi 環境はあまりよくない状況である。</p>
[松政委員]	<p>環境改善の話は出ていないのか。</p>
[学芸第三課長]	<p>少しずつ整備してきているが、大規模な計画は現在ない。</p>
[総務課長]	<p>Wi-Fi 環境はさらに改善が必要と考えている。</p> <p>それ以外で、「ポケット学芸員」という展示物の解説をスマホで見たり聞いたりできるアプリを、当館で早い時期に導入している。</p> <p>全国的に導入が進んでいるかと言えばそうではないが、当館の取組は早い方だと思う。</p>
[松政委員]	<p>その活用を進められたい。</p>

[阿部委員]	学校教育との連携関係で、教材用資料の貸出しは随時となっているが、どの位あったのか。
[学芸第三課長]	例年は10～20件程度あるが、本年度はない。
<b>(2) 協議事項</b>	
[議長]	「令和3年度岩手県立博物館事業計画（案）について」を議題とする。
[副館長]	「令和3年度岩手県立博物館事業計画（案）について」副館長から資料により説明する。
<b>【質疑応答】</b>	
[松政委員]	<p>特別展を3年度にあらためて実施するというので、1年遅れたが、その間に動いたもので活用できるものは活用した方がよい。</p> <p>環境省だと「みちのく潮風トレイル」やジオパーク関連があるが、震災10年を機に各省庁の事業でも色々あると思う。誰でも利用したりできるものがあるので、県博に来た人がそれぞれの事業があることが分かるように整理する、まとめるといいのではと思う。</p> <p>また、道路事業の関係で縄文や弥生時代の新しい発見があったのではと思うので、それらを宣伝して、次の「教科書と違う岩手の歴史」展につなげてリピーターを獲得するような工夫もできるかなと思う。</p>
[及川委員]	40周年特別展に昨年も色々意見が出たと思うが、その辺をどう改善したかと、感染流行がまた広がったときに、再延期するのか、あるいは何か対応を考えているのか伺いたい。
[学芸第三課長]	<p>「教科書と違う岩手の歴史」展の関連で、三陸沿岸道工事であった弥生時代の新しい発見については、展示に取り込んでいる。</p> <p>特別展については、新しい情報を取り込めるものは取り込んでいきたい。</p> <p>また、トンネルを掘った際に出てきた石を、地質部門でトピック展として紹介したりしている。</p> <p>40周年特別展に向けてのプランBについてであるが、状況を見ながらということである。借受について難しくなる場合もあるかと思うので、コロナの感染拡大次第では、展示資料を減じざるを得ない状況もあるかもしれない。これから詰めていきたい。</p>
[菅野委員]	<p>新しい内閣では「これからはデジタルで」と、デジタル重視が言われていたと思うが、やはりインターネット、デジタル、遠隔対応等が今後求められると思う。</p> <p>一歩ずつ進むしかないが、これから更に重要になってくると思うので、前年より一歩ずつ進めていただきたい。</p>

	<p>また、3密を避けるとか、これからは色々今までのやり方が変わってくると思われるが、どういう準備をするか。</p> <p>大人数の受入れはコロナ対策に苦慮すると思うが、大きな団体の受入れが少なくなっても、5人でも10人でも興味をもった子供たちが来館し、しかし頻繁に来てもらうような仕組みを何とか作れないものか。</p> <p>ウィズコロナで発想を転換して、きめ細かな「コロナの中での博物館」を考えていくこと。繰り返しになるが、インターネット、デジタル技術の活用も一つの方向と考えるので、取り組んでいただくことを希望する。</p> <p>他に、調査研究については毎年、触れることとしている。徐々に環境整備が進められていると思うが、学芸員が今後とも研究しやすい、業績を出しやすい、それが館の業績となり、博物館の看板の元に輝くような研究環境の整備を今後とも進めていただきたい。</p>
[議長]	松政委員、関連して何かあるか。
[松政委員]	<p>デジタル化導入等大学でもあるのだが、コロナを受けて各省庁が各種補助事業を始めしており、博物館で使えるものがあれば積極的に利用するのはどうかと思う。</p> <p>博物館内の様子をスマホだけでなく自宅で見られれば、博物館に足を運んでみようかということも増えるのではないか。</p>
[及川委員]	動画配信を見たりするとかで、来館のきっかけになることもあるのではないか。
[松政委員]	もしコロナ感染拡大の際は、企画展をバーチャル展示にするとかもあり得る、難しいとは思いますが。
[議長]	例えば、ホームページを見ればというのは何かあるか。
[学芸第二課長]	<p>昨年「操り人形展」の際に、倉沢人形歌舞伎を講堂で実施する際、事前予約で少なめの人数で募集した。当方からお願いして許可を貰って映像を撮らせていただき、展示期間中、ホームページからYouTubeで動画を見られるようにした。</p> <p>当日は、講堂だけでなく館内ではあるが2か所に映像を飛ばして見ていただいた。</p> <p>初の試みだったがまずほうまくいったので、今後は、特別展やテーマ展以外にも、それぞれの場所でやっているトピック展の模様をホームページで見られるようにやっへ行こうかと考えている。</p>
[松政委員]	小中高の授業でも使えるようなものがあれば、非常に良いと思う。
[沼里委員]	<p>これまでの盛岡ふるさとガイドの活動で、最も強く心をえぐられた体験は、3.11からいくらか経たない時期のある女性との出会いだった。</p> <p>まだバスも通っていない時期に、石割桜を見るために宮古から知人の車を乗り継いで</p>

	<p>きたということだった。</p> <p>どうしてそこまでして話を聞くと、周囲の人が亡くなったり、目も向けられない津波を受けた状況の中で、目に浮かんだのが石割桜だったこと。何年か前に来て間近に見たが改めて自分も頑張らなくてはと思い、今是非また見たいと思ったという話だった。</p> <p>石割桜のガイドに出るたびに思い出しながら、チャンスがあれば、訪れて来た方々にも10年前のその情景を話している。</p> <p>生きるか死ぬかの状況の時にわっと心に浮かぶようなもの、様々あると思うが元気づけてくれるものは何だろうか。</p> <p>博物館でテーマを設定するときに、いつでもある、いるものとして「岩手山」があると思う。深田久弥さんの本では、「ここまで街に迫っている山はない」とのこと。子供も年寄りも、どういう風に生きる力にしてきたか。これからの子どもたちにどう迫れば、あるいは受け止めれば岩手山に力を貸してもらえるのか。写真展もよいが、もう一步、命に関わる、心を揺さぶる仕掛けはないか。自分には答えはないが、そのような気がする。</p>
[松政委員]	<p>写真コンテストは、県外からも応募できるのか。岩手に来たくても来れない人も応募できるように、広く全国から募ったらと思う。スマホから応募できるか。</p>
[館長]	<p>技術を競うのではなく、スマホでも何で撮ってもいいとしている。</p> <p>ただ、A4に印刷してもらって送ってもらうこととしている。データだけ送ってもらうととても時間的にも無理なので。</p> <p>用紙は何でもいいし、形式ばった形にはしたくない。「今日はきれいだな」と写真を撮って、誰に送ってもらってもいいし、全世界からの応募を受け付けている。</p> <p>エピソードとか、コメントも書いてもらうことにしている。</p>
[議長]	<p>コメント等もあると違いますね。</p>
[山本委員]	<p>応募は一人何枚までと決めているのか。</p>
[館長]	<p>一人3枚まで、としている。</p>
[松葉委員]	<p>今年度に予定していた事業が、コロナの影響で中止になったり休館をしたりなど、様々あり入館者数が減っているという報告であった。来年度事業の計画では、今年度できなかったものをそのまま引き継いでいる。コロナが収束すれば開催できると思いながらも、まだ先の見えない中で、ものによっては来年度の段階では状況をよく見ながら、できないものを早めにやめることも必要だと感じた。</p> <p>自分自身も中学校の現場でコロナ禍における行事のあり方について判断が迫られることもあった。しかし、発達段階ではやらなければいけない行事や体験もあるため、成長の過程にひずみがかかることも考えた。そういったことも踏まえて事業を考えた際に、今年度で中止した事業は、人と関わるものや、密な状態での体験学習や講演会などであ</p>

	<p>ったと思う。来年度においても、中止の判断を早めに行うとすれば、博物館のもっているものを生かし、展示に力を入れるなどして、シフトチェンジすることも必要ではないのか。</p> <p>学校等では博物館の見学希望が増えている。また、修学旅行も県内でという学校が増え、地元の施設を見たいという希望が増えている。体験ができないとなれば展示を見て歩く。どのような展示があるのか知らない子供たちも多い。岩手にはこんなものがある、ということをも改めて示す展示があるとよいのでは。</p> <p>今はグループで話し合うことをあまりさせていない。自分でメモをとったり考えたりするのであれば、学習の場として博物館の展示は大きい。目玉になる展示があると飛びついてくるのでは。美術館で東山魁夷の展示をした際は多くのお客様が来たと聞いている。展示で惹きつけることをもう一度考えてみてはどうか。</p> <p>また、博物館個々の部屋を使う方法と出前の博物館として、県内で企画展を行い、地元の子供や人々を集めることが可能ではないか。体験的なことをさせたいができないため、それを避けるためには、ある程度の空間の中で人数制限されながらも、見学をするということがベストだと思われる。そういう形で来年度の事業を考えることができるのではないかと思い、話をさせていただいた。それがすべて良い悪いではなく、入館者や岩手の財産を多くの人達に見てもらうにはどうしたらよいか、ということで話をさせてもらった。</p>
[議長]	<p>博物館の人々は日々頭を悩ませて、どうすれば実施できるのか検討しているかと思うが、今年度中止になったものも多くあったが、来年度実施に向けて前向きな計画になっているものがあれば紹介してほしい。</p>
[副館長]	<p>具体的なところはまだ計画検討中である。先ほどのお話はその通りだと思う。コロナの状況はいずれ劇的に改善することは想定できない。今現在、来年度の事業計画において今年度ベースで考えており、同時平行でコロナを意識した別の実施方法を学芸員の方で考えている。</p> <p>一方で、博物館の収蔵品について、寄贈希望の方が多くおり、貴重な財産を預かっている状況。そういったものをこの機会を通じて見ていただくことは大きい。展示替えやスペースを活用した見せ方など検討したい。一人でも多くのお客様が博物館で楽しく学んだということにつながれば良い。それを基本に令和3年度の事業を考えていきたい。</p>
[館長]	<p>去年の今頃を考えれば影響は限られていると思っていたが、去年より今の方が非常に厳しい。二通り考えていかなければいけないが、やはり沿岸の方々から「残念だった」、「楽しみにしていた」と言われると、なんとかしてやりたいという気持ちがある。</p> <p>たぶん菅総理と同じように、なんとかオリンピックをやりたいと思うのと同じように、それに担当した学芸員もかなり熱をいれてやってきたため、変えながらやっていくこともあると思うが、どうしてもその場合はそれぞれ良い方向に変えざるを得ないかと思っている。できるだけやりたい、なんとかできないかなと考えている。</p>



[議長]	<p>学校関係の行事では、例えば運動会は午前中開催にし、一緒に昼食を食べることはなし、競技も密になるものをカットしたりしながら、いろんな工夫をしながら行事の体験を積ませてあげたいという工夫の中で行われている。</p> <p>例えば、古文書入門講座も20人は無理だが、10人ならでき、やり方次第でできることがまだまだありそうな気がする。やり方を工夫しながら持つて行くことも。幸いまだ首都圏に比べれば岩手の状況は落ち着いた状況にあるかと思う。これからはおさら落ち着いたきてくるのでは。</p>
[菅野委員]	<p>結構ZOOMでできることがある。大学で古文書解説講座のような授業を行っていた。ZOOMの活用も考えてみては、無理をすることはないが。</p>
[議長]	<p>受講者がZOOMの環境を持っているかどうか。</p>
[菅野委員]	<p>そこである。パソコンで見るとスマホで見るとかで全然違う。ZOOMの活用として話をさせてもらった。</p>
[議長]	<p>ありがとうございました。ほかにありますか。</p>
[細越委員]	<p>トピック展について資料に載ってないが、毎月一度は見に来ているがなかなか面白い展示で、小さいコーナーながら見てほしいということアピールするような企画である。それを資料に載せてもよいのではないか。</p> <p>化石の水族館ではとても工夫されており、操り人形の際は人気投票なども行っていた。もう少しアピールしてもよいのでは。ツイッターをせっかくやっているのにヒントが少ない。もう少し周知してフォローしてもらえるような工夫をした方がよいのでは。</p> <p>ZOOMやデジタルについては賛成で、楽しみにしているバックヤードツアーは、今年度開催できなかったが、来年度も厳しいのではないかと考えている。バックヤードツアーはやはり見てみたい。それこそZOOMが見られる人でなければ無理かもしれないが、逆にZOOMでもっと近くで見たり、触れないものを見せてもらったり、ということもあると思うので、ぜひやってみる価値はあるのではないかと思う。ZOOMがだめだったら動画で配信して、権利の問題があるかもしれないので難しいところはあると思うが工夫はできるのではないかと思った。</p> <p>ミュージアムショップが寂しいなとずっと思っていた。毎回来ると盛り上がっていたのはガチャガチャのところ、歴史に関連したガチャガチャがあるが、もう少し数を増やすと盛り上がるし、リピーターも来るのでは。手間でなければやってみては。</p>
[議長]	<p>予定していた時間が残り少なくなったため、意見のある方はどうぞ。</p>
[五日市委員]	<p>高校の現場から、バックヤードツアーがないのは非常に残念。高校生のうち一定数は美術館や会館、動物園、博物館等がどのような職業か知りたがっている。バックヤードツアーは毎年5月か6月に、年に一度行われているが、5月は高校生が非常に忙しく、土日</p>

	<p>は大概忙しい。コロナのこともあるので、今ぐらいの時期や、希望者を募って見せていただいたり、学芸員が何をしているかといったキャリア教育みたいなものを、高校の現場と協力してうまく組み立てられないか。</p>
[学芸第二課長]	<p>今年もある高校の、学芸員をやってみたいという高校生の方が来て、当館の学芸員が対応した。館内を巡って歩くということを実際に行っている。大々的に募って行うことはないが、お話があれば対応させていただくことにはしている。担当者にもそのようにアピールしてみてもどうかと伝える。</p>
[館長]	<p>つけ加えると、昨年大学生の研修会に高校生の母親から電話があり、将来学芸員になりたいので参加できないかという旨を伝えられ、参加してもらった。その時のことを小論文に書いて提出し、大学に合格した。盛岡第四高等学校の生徒さんだった。連絡していただければ、そのような研修会にも参加してもらえるかと。人数があまり多いとあれだが、どの学校でもお受けできるようにはしたいと思っている。</p>
[山本委員]	<p>個人的に金田一家収蔵資料展に興味があるが、具体的にはどちらの金田一家なのか。</p>
[学芸第二課長]	<p>金田一勝定さんである。金田一京助は親戚にあたる。歴史専門ではないので詳しくはわからないが、銀行の頭取になった方である。文書や民俗資料など様々ある。今回は歴史の分野で展示をすることになっている。まとまって寄贈いただき、直接的な手紙などの資料よりは間接的な資料の展示になるかと思われる。</p>
[沼里委員]	<p>ガイドをしていると、県外の修学旅行生や城巡りをする大人たちが来るが、その方々が描いてきたイメージと合う部分もあるが、盛岡に来て初めて体験して、見たものに対する自分自身の心の反応がまた来たいという気持ちにつながっているようだ。城巡りに来たのに岩手山が見えない盛岡城とは何なんだ、と言われたが、仕方がない、天気次第だ。</p> <p>菜の花畑も一緒に写った岩手山の写真を見せて説明したら、その写真を撮る方が多く、岩手山を見たかったのに見られなかったという、残念さが次の来県につながっている。自然のすごさはここに住む我々も感じることもあるが、全く見たことがない遠方の方々が来たときに見たかったものが見られなかった場合の何か手助けができるかもしれないと思いながら写真を持って行ったが、遠方から来た方々のためにも、岩手山や石割桜はいつでも紹介できるように準備が必要だと、体験を通して思った。</p> <p>岩手の歴史の三閉伊一揆を、特に子供たちに、どうやって危険をおかしてまでも、命をかけてまでも、自分のためというより皆のために行動を起こすことができたのだろうか、きっと今の人達ではできないと思うが、できなくてはダメなのだという気持ちにもっていくにはどういうことが必要なのか、ヒントと答えが博物館の方々にはあるのではないかと考えている。これからのテーマ展や資料など期待している。</p>
[議長]	<p>自分の認識と実際との違いがいろいろなことに興味を持つきっかけになるのではな</p>

<p>(3) その他</p> <p>[議長]</p> <p>[細越委員]</p> <p>[議長]</p> <p>[館長挨拶]</p>	<p>いかと思う。来年度のテーマ展「教科書と違う岩手の歴史」では、教科書と何が違うのか、ネーミングの仕方が面白いと思った。楽しみにしている。</p> <p>今年、コロナのため他県に行かず、博物館に立ち寄った学校等を大事にし、リピーターになる可能性があるため、来年も来ていただけるようファンを大切にしながら来年度も取り組んでいってほしい。</p> <p>その他何かあるか。</p> <p>今博物館では、コロナに関連する資料を一般の方からも収集していると思うが、その活動についても記載してよいのでは。これから続くものであり続けてほしい。何年か後に「コロナと博物館」といったテーマになると思う。いい取組みだと思うのでツイッター等でアピールして良いことだと思う。岩手日報などで取り上げていただくのもいいと思う。</p> <p>その他あるか。 なければ以上で議事を終了する。</p> <p>長時間にわたり、貴重な御意見をいただき感謝申し上げます。今後の博物館運営に生かして行きたい。</p> <p>コロナ禍でも約2万人のお客様に来ていただいた。5,6月頃は、1万人もいかないかと思っていた。全国の博物館、美術館で感染を上げたという話は聞こえていない。保護者の方が、どこにも連れていけないので博物館に連れてきてくれたのかと有難かった。</p> <p>先ほど話が出たようにトピック展に関しても、専門分野ごとに、または学芸員の研究している分野ごとに、例えばコロナ関連について新聞で取り上げてもらったが、その他にも動物の毛皮、ゴジラ鉄瓶の借受け展示等は、子どもにも喜ばれた。</p> <p>地質観察会、自然観察会も希望が多いので、少し規模を縮小して実施した。</p> <p>新聞などを見て、これいいなと思ったら、借りてきて展示して皆で喜んでもらおうと。私は、昨日のことは全部「博物」という風に言って、そのように話している。</p> <p>是非、色々なアイデアがあれば、館に寄せていただきたい。</p> <p>写真コンテストのコマーシャルをさせていただくが、応募は幼児から高齢者まで、平均年齢が70歳位で、そういう方々も楽しみに写真を送ってもらうことはいいことだと思った。</p> <p>まだ浸透していない面もあると思うので、来年度も続けて、広く応募いただければと思う。</p> <p>(「私の岩手山」応募作品数点を披露、紹介。)</p> <p>撮影したそこに行ってみたいなあと感じる写真ばかりである。</p> <p>「私の岩手山」というネーミングは、取られないようずっとやりたいと思っている。</p> <p>長時間、ありがとうございました。</p>
--------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**7 閉会**

[総務課長]

以上で協議会を閉会とする。  
(テーマ展・トピック展を案内。)